太白区の文化財紹介

太白区は、旧仙台市域の南部と旧秋保町とを合わせた232㎢の広さを有しています。奥羽山系に源を発する名取川が東流し、美しい渓谷から沿岸部の沖積平野まで様々な地形を形成しています。その中には20,000年前にさかのぼる富沢遺跡や多賀城以前の役所跡である郡山遺跡など、集落・役所・墳墓・城館などの遺跡が253ケ所も見つかっています。ここでは、これまで発掘調査された代表的な遺跡を紹介します。

山田上ノ台遺跡

前期旧石器を出土したことで有名です。縄文時代中期末には大きな集落が営まれ、38軒の竪穴住居跡が発見されました。

下ノ内浦遺跡

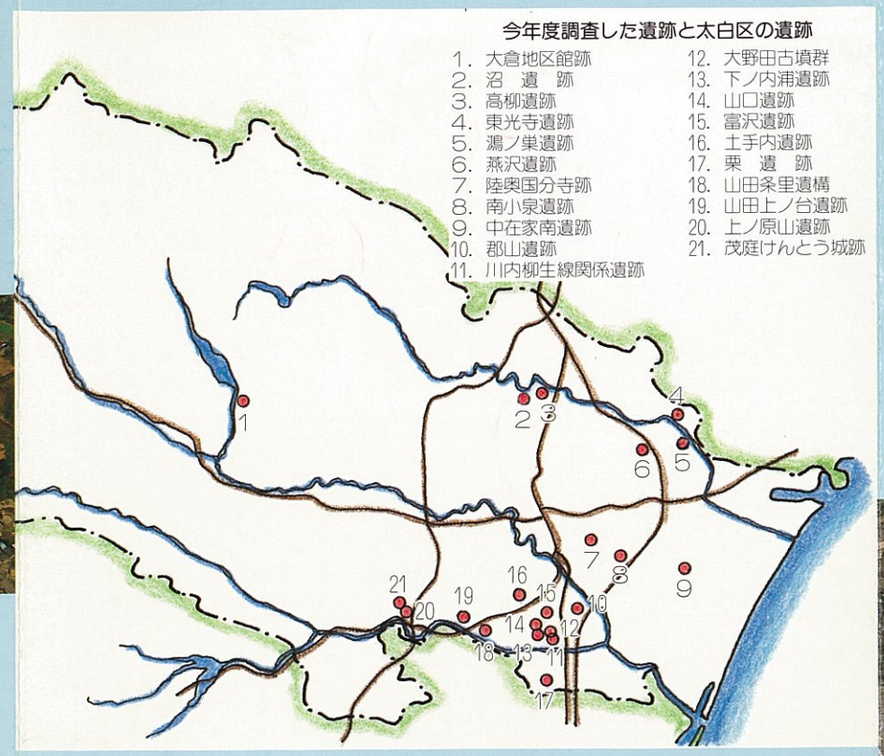
縄文時代早期～中世まで続く遺跡です。縄文時代後期前半の地層からは、配石墓等からなる墓地が発見されています。副葬品として耳飾りや縄文土器が出土しました。

王ノ壇遺跡

都市計画道路工事に伴う調査で発見された遺跡で、中世の建物跡や古代の畑跡と考えられる小溝跡、古墳時代の円墳等が発見されました。下層からは縄文時代後期の土器なども出土しました。

栗遺跡

名取川の南側、西中田地区にある古墳時代後期の集落跡で、40軒の竪穴住居跡が発見されました。東北地方南半部の土師器編年「栗囲式」の標式遺跡として有名です。



三二報告　－今年度のその他の調査－

沼　遺　跡：泉区上谷刈
中世の水田跡や江戸時代以前の道路跡が見つかりました。

大倉地区館跡：青葉区大倉
中世の館跡を取り囲む土塁と堀跡が見つかりました。

東光寺遺跡：宮城野区岩切字入山
中世の寺院・城跡の門前で集落跡の一部を調査しました。

鴻ノ巣遺跡：宮城野区岩切字鴻ノ巣
平安時代の溝跡・土坑・ピット等が見つかりました。

燕沢遺跡：宮城野区燕沢
平安時代の竪穴住居跡や掘立柱建物跡が見つかりました。

陸奥国分寺跡：若林区木ノ下
奈良・平安時代の官立寺院、七重塔跡の南側を調査しました。

南小泉遺跡：若林区遠見塚
縄文土器や井戸・中世の大溝等が見つかりました。

都計道路川内柳生線関係遺跡：太白区大野田
中世の建物跡や古墳・縄文時代の土坑が見つかりました。

大野田古墳群：太白区大野田
古墳時代の小溝状遺構群(畝跡)や竪穴遺構等が見つかりました。

山口遺跡：太白区富沢・泉崎
弥生～中世の水田跡、溝跡や集落跡が見つかりました。

山田条里遺構：太白区山田・鈎取
溝や土坑、平安時代の水田跡を広い範囲で確認しました。

上ノ原山遺跡：太白区茂庭字上ノ原山
縄文時代の遺物や旧石器時代の石器が見つかりました。

茂庭けんとう城跡：太白区茂庭字生出前
縄文時代の住居跡や陥し穴、江戸時代の堤が見つかりました。

平成2年3月　仙台市教育委員会文化財課

仙台市文化財パンフレット第19集

第12回文化財展

── 発掘この一年 ──

高柳遺跡縄文土器出土状況

仙台市教育委員会

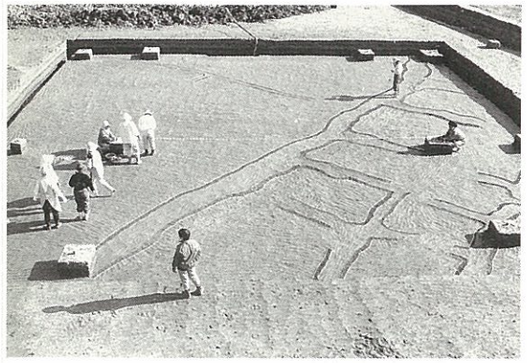
縄文土器の大量発見 ― 泉区　高柳遺跡 ―

七北田川の河岸段丘上から、約5000年前の縄文時代中期の土器や石器が大量に出土したほか、類例の少ない江戸時代前半の屋敷墓が発見されました。折り重なるように集中して出土した土器は、平箱で1000箱以上にもなります。当時の人々の住居は発見されませんでしたが、大量の出土品からは、ここに長い間にわたって縄文人の集落が営まれていたことがうかがわれます。今回の調査はその集落のごく一部分で、こわれた土器など様々なものを捨てていた場所だったと考えられます。

◀調査風景

縄文土器の出土状況▶

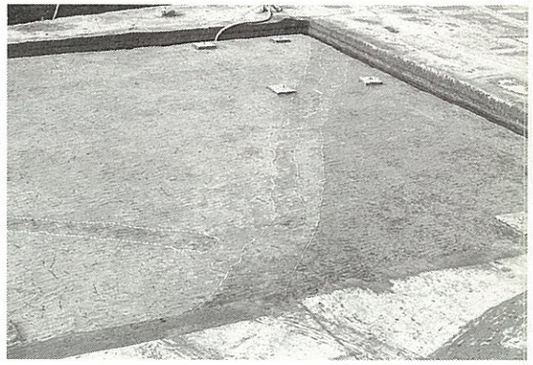
弥生時代の水田跡 ― 太白区　富沢遺跡 ―



今年度、富沢遺跡周辺では13地点で発掘調査が行われ、様々な時代の水田跡が発見されました。これらのうち弥生時代の水田跡は約2000年前のもので、左の写真のようなミニサイズの水田もあります。

◀ミニサイズの水田跡

弥生時代の富沢付近は広い湿地帯であったと考えられています。当時の人々はこの中でも条件のよい場所をいくつか選んで水田をつくりました。右の写真の黒っぽいところが湿地で、左側に水田がつくられています。



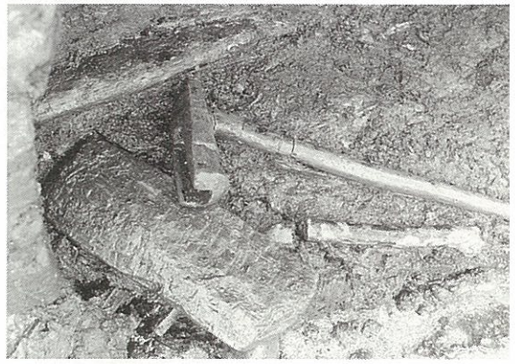
木製農耕具の大量発見― 若林区　中在家南遺跡 ―

中在家南遺跡は、河川跡とその自然堤防に立地しています。

河川跡は幅25ｍ・深さ2.5mで、弥生時代から中世にかけての約1500年かかって埋没しています。堆積土中からは弥生時代と古墳時代の農具類など、市内で例が無いほど多種・多様な木製品が出土しています。

◀河川跡の調査風景

自然堤防上からは土坑墓と土器棺墓からなる弥生時代の墓地が発見され、土坑墓の１基からは石斧や管玉等の副葬品が出土しました。



木製農具の出土状況▶

須恵器窯と横穴墓 ― 太白区　土手内遺跡 ―

土手内窯跡・横穴墓は標高30～40ｍの南斜面にあり、古墳時代終わり頃（1200～1300年前）の須恵器を焼いた窯跡と豪族や役人の墓と考えられる横穴墓が発見されました。これらの須恵器と横穴墓の被葬者は、役所跡である郡山遺跡との関連が注目されます。この上の段丘上には古墳時代前半頃（1500～1600年前）の集落跡があり、竪穴住居跡・土坑から土器等が発見された他、縄文・弥生時代の遺構・遺物もみつかっています。

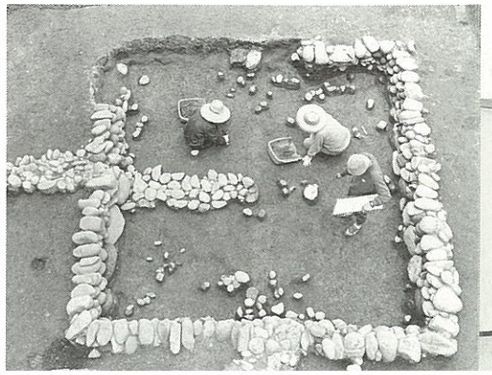
◀須恵器窯と横穴墓

古墳時代の集落跡▶

官衙政庁の正殿と石組池 ― 太白区　郡山遺跡 ―

▲四面廂付政庁正殿跡

郡山遺跡では今までに、飛鳥～奈良時代初め（約1300年前）にさかのぼる二時期（Ⅰ・Ⅱ期）の官衙（役所）跡と、Ⅱ期官衙に付属する寺院跡が見つかっています。調査を始めて10年目にあたる今年度は、Ⅱ期官衙の中心にあたる四面に廂の付く政庁正殿（東西17.4m、南北10.8m）とその北側に広がる石敷の広場、用排水施設を伴う石組の池が発見されました。このほか、Ⅱ期官衙の南外側でも、大規模な建物がいくつか見つかりました。



石組池▶

普及活動の記録

7・8月：夏休み親子体験学習

「土器作りにチャレンジしよう」に、市内の親子24組が参加しました。

8月：親子文化財めぐり

郷土史家の逸見英夫先生をお迎えし、新たに仙台市となった地域の文化財をたずねました。

12月：考古展及び記念講演会

郡山遺跡発掘10年の成果を市民の方々に紹介しました。

また、多賀城跡調査研究所長の桑原滋郎先生をお迎えし、「郡山遺跡と陸奥国」と題し講演をいただきました。